
ユビキリ

鴉取 和樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユビキリ

【Nコード】

N2458BA

【作者名】

鴉取 和樹

【あらすじ】

悪鬼羅刹の百鬼夜行 (<http://sour-grapes.jp/>)でも連載しています。

プロローグ

「指切りげんまん 嘘ついたら針千本飲ーますつ。ゆーび切った
！」

冷たい風が吹き付ける昼、可愛らしい声が鳴り響いた。

「すーちゃん、絶対に嘘ついちゃダメだよ」

舌つ足らずな声で、黒髪の少女に呼びかける。

「分かってるよ。さつきちゃんも絶対に約束破らないでね。」

黒髪の少女は、そう栗毛の少女に応じた。

絶対だよ、絶対にね、と二人でクスクス笑いながら家路につく。
頭上に広がる空は、まるで作り物のように真っ青だった。

「ねえすーちゃん、本当に好きな人いないの？」

「沙月ちゃんだったら、その質問何回目よ。何度も言ってるように、私に好きな人はいません。」

「えーっ、百合ちゃん可愛いのに勿体ない。」

「そっだよお。百合めっちゃ美人だから、告ったら絶対ウマくいくって。」

「好きな人もいないのに、誰に告白するのよ。」勝手に盛り上がっていく会話に、少し困った顔でツッコんだ。

「そんな事言つて、本当はいるんじゃないの？」

「だから、そんな人いないって。そもそも私が嘘なんか吐ける訳ないでしょう。」そう小さく溜め息をつきながら答えた。

嘘を吐けない、というのは冗談でも誇張でもなく本当の話だ。

私が産まれる数年前に、坂本とかいう首相が『嘘を吐いた人間に、刑罰を与えましょう』と新しい法律を作った。

お父さんによると、当時は議会が大荒れしたらしいが、『皆が本当の事を言う国の何が悪いのか』というもっともな意見で、結局可決されなかったらしい。

この法律で、幼稚園から小学校3年生までは、徹底的に嘘を吐く事がどれだけ下らなく、非人道的な行いなのかを教えられる。そして4年生に進級すると同時に、脳にチップを埋め込まれるのだ。どいういう仕組みなのかは知らないけど、嘘を吐くと刑が科せられるらしい。

嘘を吐いた人間が何より悪いのだから、私はこの法律が好きなのだが、両親はあまり良く思っていないらしく理解出来ない。まあ、「指切りげんまん法」という名前に抵抗があるのは、私も同意見だけ

ど。

「ねえ沙月聞いてんの？」

「え、ああゴメン、聞いてなかった。何の話？」

「だからあ、次移動だからそろそろ行くって」

見渡すと、教室にはもうほとんど人は残っておらず、まだいる生徒も教科書を手にしている。先に行つとくねー、と二人は走つていった。薄情なものである。

「沙月ちゃん、予鈴なつたわよ」と、急かしているとは思えない、のんびりとした口調で呼び掛けられる。

私は大慌てで教科書と筆箱をひっ掴んで教室を飛び出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2458ba/>

ユビキリ

2012年1月6日08時49分発行